

6月13日校長講話「雨ニモマケズ」

お昼の放送で、図書委員がおすすめの本を紹介してくれました。いろいろな本がありました。今日は、校長先生のおすすめの本を紹介します。

この人は宮沢賢治さんという人です。詩人であり童話作家であり、画家、地質学者でもあり、学校の先生もやっていました。その人の書いた有名な詩に、「雨ニモマケズ」という詩があります。この詩を覚えた6年生がいます。まず、6年生の4人にここで暗唱してもらいましょう。お願いします。

雨にもまけず 宮沢賢治

雨にも負けず風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫な体を持ち
欲はなく決して瞞らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり
そして忘れず
野原の松の林の蔭の
小さな茅葺きの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行って怖がらなくてもいいと言い
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないから止めろと言い
日照りのときは涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにデクノボーと呼ばれ
ほめられもせず
苦にもされず
そういうものに
私はなりたい



こうやって覚える価値のある詩です。
この詩は、
「どんな生き方をしたらよいか」
「本当の強さとは何か」
「本当の優しさとは何か」
を考えさせてくれるからです。

この詩を暗唱しましょう。みなさんに詩を印刷した紙を届けます。この詩を覚えた人は、校長室か図書館の細川先生のところに来て、暗唱してください。できたら証明書をあげます。おうちの人にも聞いてもらってください。挑戦して、たくさんの方が来てくれるのを待っています。

